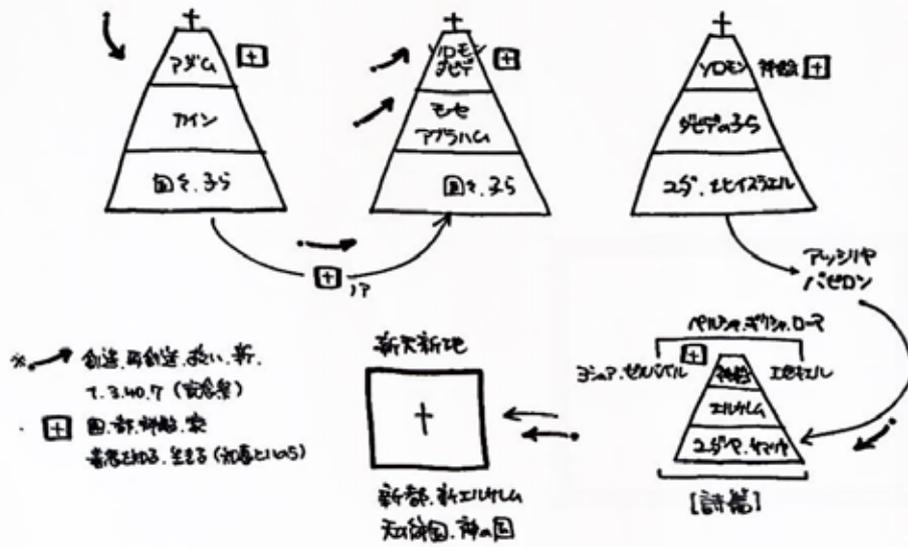


はじめの天地 → 新しい天地 田

2016.11.16



嬉しい!!  
見つけた!!  
エラ3:12~

こちらは(一つ前よりも)小さい形になっています。この時には、ペルシャ、ギリシャ、ローマの帝国の下で守られた状態でイスラエルの民、ユダヤ人がいるという状態になります。この時の神殿は第二神殿と言われます。(一つ前が)第一神殿です。

この第二神殿が建っている時に、イエス様が来て、神殿で話していると言われていま... この神殿はあまり素晴らしいものではなかったもので、前の神殿を見たことがある人は泣いているというように書いてありますが、ただ、最初からどんどんダメになっているということでもないのです。最初の創造よりも次の段階のほうが進んで発展しています。栄光が豊かに現されています。ここから戻って来た時のこの(第二)神殿は見た目、人の目には小さく見えるのですけれど、エゼキエルの神殿のまぼろしに言われているように、この時代の(第一)神殿よりもっと偉大な栄光がある、見える人には見えないという時代になっています。

この(第二)神殿は、このモデルは残念ながら、ヨシュア、ゼルバベルがリーダー(王で祭司)なのですが、ここから発展していけば良いのですが、これ自体がダメになってしまっている。祭司長、律法学者、パリサイ人たちが(リーダーの)座に着いてしまっているということです。

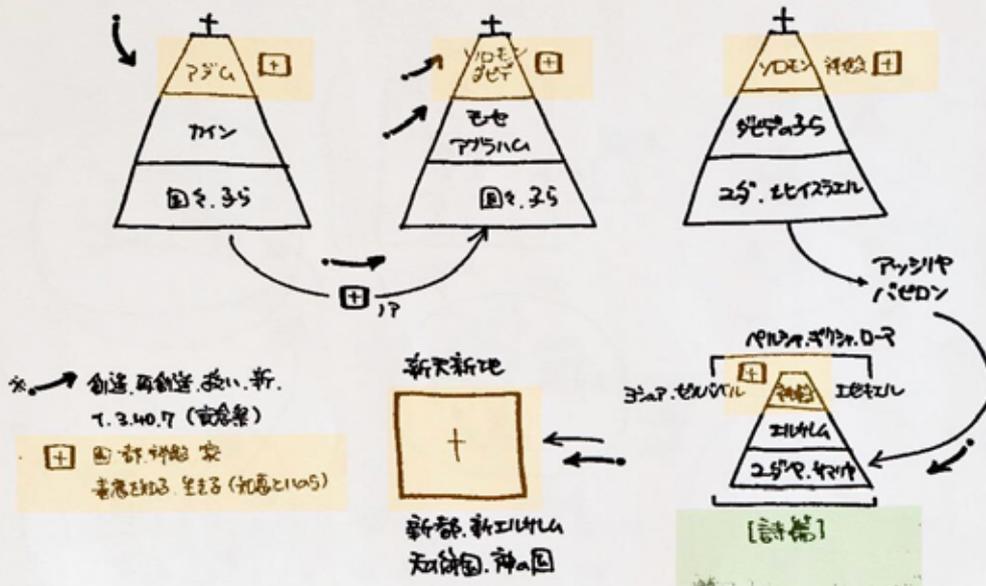
質問1. エゼキエル書で「偉大な栄光がある」といふところはどこですか?

感想 エラ.ネハミヤの神殿再建の歴史、時代(年表)を見て、第一神殿、第二神殿への当時の人々の思いを知る事ができました。また、あの前のことも無知な私には、エゼキエル書の預言書として後の方に書かれている、時代順と思いついてしまっていたけれど、それは違っていること、最初の詩篇全体の学びから、これを見て活かされていきます。感謝です!!



はじめの天地 → 新しい天地 田

2016.11.16



それと、最初のエデンの園、ダビデの幕屋、ソロモンの神殿を求めている神様に会う場所、神様が居る場所、平和なシャロームな場所、恵みにあふれている場所、これが園、都、神殿、家のモデルですので、これも比べてみる必要があります。

質問? ☆  
このように  
学ばせ良か?  
二つのテ-にみるか?

ここに詩篇と書いてありますが、ここからここまでがモーセの律法。預言者と  
いっているのは歴史書と預言書が一緒になっていますので、このくくりが預言者。そし  
て詩篇です。詩篇は前から書いてあったものですが、この時代に霊の歌として編集さ  
れて、この歌は新天地を目指している約束の書物という形になっていますから、新し  
い天、新しい地とはどういうものなのか、どう求めるべきなのかを古い時代よりもつ  
とはっきりと御霊の力によって教えられている書物です。

この表現を  
もっと変えたいと  
いう感じが

詩篇の位置づけは、ちょうどここからイエス様が来るところですので、より霊に近い、  
霊の歌という感じです。当時の人たちもよく覚えていたわけですから、書かれていた詩  
篇や預言書やモーセの律法の中にある詩、モーセの歌やダビデの歌などを連想してマリ  
ヤは歌うし、ゼカリヤも歌うし、手紙を書いているパウロをはじめ、手紙で新しい天、  
新しい地を造っていく人たちも詩篇をたくさん引用する。それは、新しい天、新しい地  
はこの約束のもとに造られていますよ、その目的は神様を歌って賛美することですよ、  
ということがあふれていることがわかるものだと思います。位置づけとしては最後の(新  
天新地への)部分を担っているのがこの詩篇になると思います。